

直売所と農林産物生産者のタイアップによる地域資源の利活用で農山村を元気にし、都市住民との交流を目指す

築上町農林業元気づくり協議会（築上町）

【地域協議会構成団体】 直売所(メタセの杜・事務局)、豊築森林組合西部支所、京築ブランド館、JA福岡京築、築上町、上城井ふれあい協議会、龍城院集落協定、生産者

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成29年3月

- ・事業の中心となるメタセの杜及び出荷者代表等からの要望・意向を把握し、協議会を設立した。地域協議会構成団体及びメタセの杜出荷者に周知した。

2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・特産品の安定生産：キクイモやヤーコンの安定供給を図るため、集出荷・加工場の設置を決定し、H31年2月から稼働を開始した。また、平成30年10月に築上町きくいもクラブを設立し、きくいも生産者を募った。これにより生産者は25人となった。（キクイモ商品販売量：0.8ト/ H28年→3.8ト/ H29年→12ト/ H30年）

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・木材加工品の開発・販路拡大：自転車ラックの試作品の市場調査を実施し、新商品を販売。
（自転車ラック…H29：1種類試験販売、売上実績なし。H30：1種類試験販売、売上実績なし）
- ・6次化商品の開発：生イモ以外の商品開発を促進するため、パッケージラベル等を作成した。
H29：キクイモ商品(チップ・パウダー)のパッケージラベル、パンフレットを作成した。
H30：ヤーコンのチラシ、パンフレット、きくいもクラブのシールを作成した。
チップ販売量(青果物換算)：44kg/ H28年 → 99kg/ H29年 → 1169kg/ H30年
パウダー販売量(青果物換算)：132kg/ H28年 → 206kg/ H29年 → 1181kg/ H30年
- ・6次化商品の販促：特産品としてのキクイモを地域住民に広く周知するため、町民約40名を対象に「キクイモ生活」調査を平成30年11月に開催。キクイモ商品を試食してアンケートに回答してもらった。また、調査結果を報告し、キクイモの機能性や協議会の取り組みを紹介する「築上町きくいもシンポジウム」を平成30年12月に開催した。（シンポジウム参加者：約200名）

III 地域の人口を増やす

- ・農家民泊等の活用による交流の実践：平成29年11月にキクイモ収穫・木工体験を行った。（36名参加）平成30年2月に北九州マラソンに出店し、キクイモ入りお汁粉のふるまいやパンフレットを配布して築上町をPRした。平成31年2月に北九州マラソンおよび春節祭in福岡に出店し、キクイモとヤーコンの試食販売を行い築上町をPRした。平成30年度からは、地元の上城井小学校の生徒にキクイモの栽培・収穫・調整・販売までを体験してもらい(上城井小学生の販売数量：313袋)、地元の特産品への意識醸成と都市部住民との交流を実施した。



【京築産材を使った自転車ラック】



【収穫体験ツアーの実施】



【築上町きくいもクラブ設立】



【築上町きくいもシンポジウム】

3. 今後の展望

- ・特産品の出荷体制を強化するため、集出荷・加工場の整備を進める。また、新たな作付希望者にキクイモやヤーコンの種イモを提供し、面積の拡大、出荷量の増加を図る。
- ・消費者の意見を反映させた京築産材を使用した新たな商品を開発し、直売所で販売することで、木材の消費拡大、販路を拡大する。
- ・キクイモおよびヤーコンをつかった6次化商品を充実させ、農業所得の向上につなげる。
- ・協議会を継続的に運営するためには、実施主体となる団体及び組織の事務処理の人員確保または育成が課題である。